

「神らしい神」——トマス・アキナスにおけるプレゼンツとピュシスとしての神 (= 存在) の側面について

上田圭委子

(東京都立大学非常勤講師)

ハイデガーは、『形而上学の存在 - 神 - 論的体制』(1956/57) (以下『体制』論文と略称) において、ヘーゲルとの対決から出発しつつ、形而上学は、ギリシア人のもとの始まり以来、存在-神-論であるが、「神」がどのようにして哲学の中に入り来ったのかといえ、それは「自己原因(causa sui)」としてであるとしたうえで、「自己原因としての神」を「あきらめなければならぬ」ような「神-無き思索」の方が、「神らしい神におそらくより近い」(Vgl.GA11,77) としていた。こうしたハイデガーの言葉は、直接に中世の形而上学を名指したものではないが、「在る者 (Qui est)」(S.Th.I.q13.a11) を神の固有の名とするトマス・アキナスの形而上学にも妥当する批判であるように読める。しかし、本当にそうなのであろうか。

ハイデガーは、「形而上学」が「存在-神-論」であるという指摘を、20年代から50年代まで、一貫してアリストテレスおよびヘーゲルと関係づけつつ為しているが、「形而上学」および「存在-神-論」の意味の内実には、時期による変遷があることが確認される。したがって、私たちは、『体制』論文における「存在-神-論」の「神」という言葉の意味範囲を検討することから始める必要がある。ハイデガーは、『体制』論文と同年のヘーゲル『論理学』演習記録において、ヘーゲルの「絶対者」を「プレゼンツ」と「絶対的な根拠 (Grund)」の二つの側面に区別し、後者を「自己原因 (causa sui)」と結び付けている (Vgl.GA84,476)。これに対して「プレゼンツ」の側面は、「プレゼンツ—時間・活動・空間—ピュシス」(GA86,478) といった形で、ピュシス概念と結び付けられており、「自己原因」の側面とは区別されているように思われる。『体制』論文においてハイデガーが、「神-無き思索」のほうが「神らしい神」により近いと語り、「神らしい神」の存在自体を否定しているわけではないことからすれば、このような絶対者の「プレゼンツ—ピュシス」的な側面は、ハイデガーの言う「自己原因」としての「神」とは区別された、「神らしい神」概念である可能性もあり、少なくとも『体制』論文での自己原因としての「哲学の神」への批判からは免れている側面ではないかと考えることができる。

その場合には、トマスの神概念の内に、こうした「プレゼンツ」あるいは「ピュシス」につながる神 (= 存在) の概念が見出されれば、トマスの「神」は、ハイデガーの『体制』論文での「存在-神-論」批判の対象とはならない面をもつと言いうる可能性を開くことになると考えられる。

上述の見通しのもとで、本発表の後半部では、トマスの神 (= 存在) 論のうちに、われ

われのもとに現存し、また恵みを与える働きとしての神、すなわち「プレゼンツ」と「ピュシス」に関わる神についての理解を見出すことができるのかを検討する。その際私たちは、トマスにおける「神」という名称が、「それ自らの本性においては我々に知られていないもの、そしてただその諸々の働きと諸々の果よりしてのみ我々に知られるに至るものであるがゆえに」「働きの名称 (nomen operationis)」とされていることに鑑みて (S.Th.I.q13.a.8)、トマスにとっての「存在=神」を、その働きにおいてみてゆく。

トマスにおいては、ヘーゲルの「絶対者のプレゼンツ」に相当する側面は、『神学大全』第一部第 8 問のうちに見出されえるように思われる。そこでは、トマスは、アリストテレス『自然学』に依拠しつつ、「作用者が、自らの働きのおよぶところのものにおいて現存しているがごとくに」「神はすべての事物において存在している」とし、「けだし作用者はすべて、自らが直接的に働きを及ぼすところのものと結ばれており、自らの力を通じてこうしたものに接している」としている (Vgl.S.Th. I .q8.a.1)。

またピュシス的な神の働きについては、私たちは『神学大全』第二部の 1 の第 109 問から 114 問の恩恵論を取り上げて検討する。そこではトマスは、アリストテレス『自然学』における運動概念に依拠しつつ、人間の知性認識や意志を含むあらゆる運動 (motus) の根源を、「第一の動かすもの」としての神の働きの内に見て取り、その諸相を、神の「助け」あるいは「恵み (gratia)」の働きとして明らかにしていることが見て取られ得る。

「神らしい神」をめぐるハイデガーとトマスの思索は、古代ギリシアに「聖なるもの」たるピュシスのロゴス化の可能性を見るという、共通の根を持っていると言えなくもないのである。